令和５年度第１回中央区地域支えあいづくり協議体　（議事録）

日　時　　令和５年７月２６日（水）　午前 10 時～11 時 40 分

場　所　　中央区社会福祉協議会３階会議室

次　第

１　開会

２　会長挨拶

３　新任委員紹介

４　各委員より報告

５　議題

（１）　高齢者施策推進室より報告

（２）　生活支援コーディネーターによる取組みについて

（３）　「支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体)」実施報告

（４）　意見交換

「参加ニーズが高まる高齢者への情報発信について」

６　今後の協議体実施予定

７　閉会

出席者（敬称略：順不同）

【委員】

髙橋　恵子　　埼玉県立大学／聖路加国際大学大学院客員研究員
鈴木　雅之　　民生・児童委員協議会　京橋地域高齢福祉部会
髙野　大輔　　民生・児童委員協議会　日本橋地域高齢福祉部会
大矢　智子　　民生・児童委員協議会　月島地域高齢福祉部会
吉田　千晴　　京橋おとしより相談センター
保田　奈奈　　日本橋おとしより相談センター
林　裕一　　月島おとしより相談センター
加久　哲也　　中央区桜川敬老館孤立防止・生きがい推進担当
遠藤　馨　　中央区浜町敬老館孤立防止・生きがい推進担当
岩﨑　千春　　中央区勝どき敬老館孤立防止・生きがい推進担当
古田島　幹雄　中央区社会福祉協議会　事務局長
片桐　義晴　　中央区社会福祉協議会　管理部地域ささえあい課長
　　（第１層生活支援コーディネーター）
北澤　千恵子　中央区高齢者施策推進室長
阿部　志穂　　中央区福祉保健部高齢者福祉課長
河内　武志　　中央区福祉保健部介護保険課長

【オブザーバー】

射場　典子　　聖路加国際大学　国際・地域連携センター：PCC 開発・地域連携室

配布資料

資料１　　中央区地域支えあいづくり協議体運営要綱
資料２　　訪問健康づくりのご案内チラシ
資料３　　暮らしの困りごとサポートご案内チラシ
資料４　　在宅生活を支援する事業のご案内チラシ
資料５　　中央区行方不明者高齢者捜索ネットワークチラシ
資料６　　生活支援コーディネーターによる取り組みについて
資料７　　支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体）実施報告

各委員からの報告：

「最近の高齢者の生活の様子について」

・新型コロナウイルスが第５類感染症に移行後も、おとしより相談センターの業務としては特に変わったところはない。最近では暑さに気を付けるよう声掛けを行っており、それを理由に普段回っていない高齢者宅にも訪問している。

・敬老館のマスク着用は個人の判断に任せることとなった。声を出す活動（コーラスやカラオケなど）は引き続き着用をお願いする。敬老館は９月 10 日まで、開館時間を午後６時まで延長。暑さ対策に役立てて欲しいと呼びかけを行っている。

・高齢者に関わらず町会の活動はほとんど元通りになってきた。コロナ前と比べると、5 月の神田祭には 1.5 倍の人数が参加した。これをきっかけに、新しいつながりができていると感じている。

・社会福祉協議会の事業も徐々に戻りつつある。夏に次世代育成として行っているボランティア体験のイナっこ教室に関しては、昨年度は施設に子どもたちを送り出すボランティアは難しかったが、今年度は受け入れてもらえるようになってきた。

・コロナ禍では感染により介護保険サービスが入れないといったケースがあったが、今は減ってきた。一方で、熱中症などの症状で救急車を呼ぶが、なかなか救急車が来ないといったケースがある。

・マイホームはるみの傾聴ボランティアが再開された。傾聴と言っても一緒に話をすることが多いが、認知症の方の表情が豊かになったとの声が職員よりある。また、再開発で転居をしなくてはならないといった高齢者も増えており、新しい土地で馴染むのに苦労している印象がある。その他、コロナ禍を経て足が弱ってしまったという声が多い。

・今年度、生活支援コーディネーターのもとには、ケアマネジャーから語学を学べるようなサークルのような場所がないかなど、介護保険サービス以外で地域で参加できる場所の問い合わせが多い。また来月開催予定のスマホささえ隊養成講座には 20 名を超える応募があり、活動意欲、参加意欲の高い方の参加が増えてきた。一方で、地域に出ることが意欲的でない方たちにどのようにアプローチするのかという課題もある。

・利用者と話をしていると元気になっていると感じる。「友人と〇〇に行った。」という話を聞くことが多い。また、スマホの使い方に関する相談を受けることも多くなってきたが、友人と連絡を取るためのツールとして捉えている方が多い印象を受ける。敬老館に来所されない方に関しては、お元気ですかコールをしているが、なかなか来所されない方もいて、外出を控えるという行動様式に慣れてしまっていると感じる。そういった方たちに働きかけることが敬老館の役割と考えている。

・高齢者クラブの代表をしており、先週も活動があったが出席率が良い。70 代前半の方は少なく、すべての活動をリタイアされた方が多い。そのため、みんなでどこかに出かけるというのは難しく、民謡や童謡を歌うといった内容が多くなってしまうが、内容によっては男性の参加率が低くなってしまうのが課題である。

・敬老館ではコロナ禍で体力が落ちたとの話を利用者からよく聞く。マスクは自己判断に任せているが、ほとんどの方が付けている。入口に設置している手指用消毒液の減り方も

コロナ禍と比べて変わらないことから、感染対策の意識が高い方が多いという印象がある。
・新型コロナウイルスが第５類感染症に移行され、インフルエンザと同じように扱うようになったことで、基礎疾患がある方でも入院せずに自宅で療養される方もいてケアマネジャーが対応に困っている。また、通いの場によってマスク着用に関して同一の対応でないことに困っている高齢者から事業の方針があれば出してほしいという声もある。また、敬老館に行くには場所的に遠く、距離的にも丁度よい出張所で涼んでいたところ、出ていくように声をかけられた方がいるようで、どこに行ったらよいのかを悩んでいる高齢者がいる。

議題説明
（１）中央区高齢者施策推進室より事業報告
（２）生活支援コーディネーターより事業報告
（３）生活支援コーディネーターより支えあいのまちづくり協議体実施報告
〇上記事業説明及び配布資料への質問事項：なし
（４）意見交換（グループワーク）
「参加ニーズが高まる高齢者への情報発信について」

Ａグループ：
・高齢者に最も浸透しているのは区報である。
・「あの人が行くなら私も行こう」という流れがあり、キーパーソンは大事である。
・情報は知っている人からでないと信用して受け取らないという高齢者もいる。
・敬老館ではお元気ですかコールを行っているが、月 12、３件架けて集まるのは 2、3 名程度である。
・情報発信してもなかなか人が集まらないといった場合には、講座など内容自体に工夫が必要なこともある。

Ｂグループ：
・郵便局、社会教育会館、銭湯などにチラシを配布するのが効果的である。
・情報を発信する側は対象をあらかじめ決めて発信するが、受け取る側はそうではない。目的やキーパーソンから情報をもらったことが参加につながることが多いので、広く情報を発信することが大事である。
・顔なじみからの紹介でも参加されない方はいるので、そうした方への理解も大切である。
・男性は目的が無いとなかなか参加しないことが多く、目的を多く設定することが大事である。

Ｃグループ：

・これまで取り組んできた情報発信で有効と感じたのは、郵便局、区報、区の公式LINE、Twitter、Instagram であるが、情報が届きにくい高齢者もいる。

・デジタル媒体は一気に情報を流すことができるため、発信する側にとっては有効と言えるが、受け取る側からすると何を持って有効と言えるのか。アナログとデジタルの両方を取り入れていくのがよい。

・情報を取りづらい人は地域の人の口コミが有効である。

【総括】

・有効なのは区報であるというのが共通としてあった。区民が情報を得る手段として１番に信用している。

・郵便局など高齢者が出向くところで情報を発信することも有効である。

・口コミ、キーパーソンなど信頼できる人からの情報は有効である。

・発信する効率さを考えるとデジタルは都合がよいが、キャッチが難しい高齢者には紙面、それでも難しい場合には口コミというように、これだけやっていればよいというものはなく、いろんな種類のものを発信していくことが大事である。

・既に情報発信として取り組んでいることもあると思うが、改めてこのような場で共有していくことは大事である。